

中丹の教育

まなび通信〔府立学校版〕



京都府中丹教育局

第62号

令和4年12月23日

<http://www.kyoto-be.ne.jp/tyuutan-k/ans/>

キーワード

「つながい」 令和4年度中高連携推進会議

令和4年11月17日（木）
於 京都府立綾部高等学校

本会議の目的は、すべての子どもたちが生まれ育つ環境に左右されることなく、将来を切り拓いていけるように中高の教員の交流を通して、スムーズな中高の接続を推進することです。



本年度より高等学校の新生から新学習指導要領が年次進行で実施され、幼・小・中・高が同じ学習指導要領で接続されました。新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つに情報活用能力が位置付けられており、府立高校においても今年度新生から一人1台端末を活用した新しい授業の展開が求められています。

このような背景から、本年度の中高連携推進会議は、教科におけるICTの活用を通じた「個別最適な学び」や「協働的な学び」の工夫をテーマに実施しました。

京都府立綾部高等学校を会場とし、中丹域内の中学校と中丹通学圏府立高等学校（附属中を含む）の教務主任・教務部長、情報教育（教科におけるICT推進）の主担当教員等、37名に参加いただき、授業見学や研究協議を行い校種を越えた交流や協議を通して連携を深めました。

【授業見学・授業説明】

綾部高校にはICTを活用した高校の授業を公開していただき、様々な活用方法を見せていただきました。また、学校全体におけるICTの活用状況、各教科におけるICT活用のねらいや視点について説明していただきました。

四択アプリを用いた
興味・関心が高まる学習



英語



国語

思考ツールを用いた
協働的な学習

配付された資料をもとに考える学習



地歴

写真や動画による
実験・観察記録



理科

【課題提起】

まず使ってみる段階から、授業の場面や機器の特性に応じた効果的な活用、さらにすべての子どもたちが目標やねらいを達成するためのツールとしての活用へ。そのために、校種を越えた段階的・系統的なつながりをもつことが大切です。



Step1
いろいろ使ってみよう!

Step2
場面にに応じて効果的に使おう!

Step3
目標やねらいを達成するために使おう!

Step4
学校教育目標達成のため、カリマネにICT活用場面を位置づけよう

すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現

【研究協議】（テーマ）授業において個別最適な学びや協働的な学びに繋がる効果的なICTの活用とは

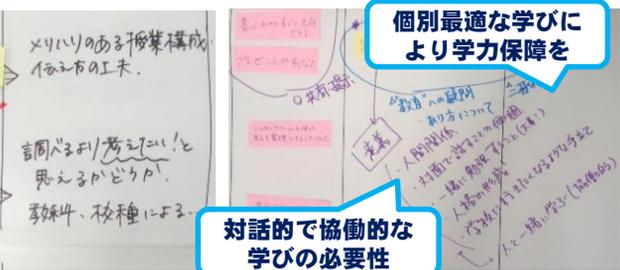
上記のテーマに沿って、①ICT機器の活用に伴う生徒の変容（生徒ができるようになったこと・生徒に付いた力）、②生徒の学びにつなげるためのICT機器の活用から見えてきた課題についてを出し合い、③課題を解決するためにできることについて協議しました。思考力を育てる重要性や、ねらいを明確にした授業改善の工夫等が挙げられ、活発な議論が行われました。

主体的に深く思考することの重要性



個別最適な学びにより学力保障を

対話的で協働的な学びの必要性



【参加者の感想・振り返り】

- ICTを活用することがゴールになるのではなく、その先の生徒達の成長に目標を設定して活用することが大切だと感じました。
- 中学校でICTをどのように活用して学び、どのような力を身に付けて高校に入学してくるのかを知るために、本日のような場だけではなく、日常的な情報交換等が必要だと思いました。

- 校内の先生方や、他校種の先生方との意見交流が増えていけば、「子どものため」という視点がICTの活用や授業改善に繋がると思いました。
- 生徒が高校に入学したとき、その差が学習を進めていく上での障壁になると思うので、中学校でどのようなことをしたかを高校につなぐことの大切さを感じました。